

## 2018年度国公立大志願状況

河合塾

2018/2/16

国公立大の確定志願者数が15日に文部科学省から発表された。志願者総数は465,708人、志願倍率は4.63倍であった。以下、発表された国公立大の出願状況について概況をまとめた。

## ■志願者数は前年と大きく変わらず

1月31日に締め切られた国公立大一般選抜の総志願者数は465,708人と前年を下回ったが、前年比でみると98.9%と大きな変化はない。募集人員に対する志願倍率は前年の4.69倍から0.06ポイントダウンの4.63倍となった【表1】。

【表1】国公立大志願状況

区分	日程	募集人員(A)		志願者数(B)				志願倍率(B/A)	
		17年度	18年度	17年度	18年度	前年差	前年比	17年度	18年度
国立大学	前期	64,542	64,344	197,112	195,255	-1,857	99.1%	3.05	3.03
	後期	14,902	14,654	139,006	134,950	-4,056	97.1%	9.33	9.21
	計	79,444	78,998	336,118	330,205	-5,913	98.2%	4.23	4.18
公立大学	前期	15,291	15,650	61,810	62,607	+797	101.3%	4.04	4.00
	後期	3,659	3,706	45,221	43,292	-1,929	95.7%	12.36	11.68
	中期	1,978	2,193	27,637	29,604	+1,967	107.1%	13.97	13.50
	計	20,928	21,549	134,668	135,503	+835	100.6%	6.43	6.29
国公立大学計	前期	79,833	79,994	258,922	257,862	-1,060	99.6%	3.24	3.22
	後期	18,561	18,360	184,227	178,242	-5,985	96.8%	9.93	9.71
	中期	1,978	2,193	27,637	29,604	+1,967	107.1%	13.97	13.50
	計	100,372	100,547	470,786	465,708	-5,078	98.9%	4.69	4.63

※文部科学省資料より

※分離・分割方式ではなく独自日程で実施する大学は上表には含まれない

国公立大入試の中心である前期日程の志願者数は257,862人（前年比99.6%）と前年並みとなった。センター試験の受験者数が前年比101.2%とわずかながら前年を上回ったのと比較すると、国公立大の人気に落ち着きを感じる。

【表2】は、大学所在地別の志願状況をまとめたものである。東北地区、北陸地区の大学では志願者が増加した一方、四国地区では志願者が大きく減少した。東北地区では、秋田大で志願者が前年比185.6%と大幅に増加した。とくに、昨春入試で志願者が大幅に減少し低倍率となっていた理工学部で前年の3倍もの志願者が集まった。理工学部では今春入試より2つの入試区分を導入する。このうち、一方の方式に志願者が集中した。北陸地区では今春学部・学科の再編を行う富山大や金沢大で志願者がやや増加したほか、富山県立大など公立大で志願者の増加が目立つ。四国地区では、昨春入試で大きく志願者が増加した徳島大（理工）、高知大（人文社会科学、理工）などで志願者が大幅に減少したほか、隔年現象が起きやすい公立大での志願者減少が目立つ。

後期日程の志願者は178,242人（前年比96.8%）で前年から約6千人減となった。一橋大（社会、法）や九州大（歯）など難関大を中心にみられる後期日程廃止・縮小の動きが影響している。

公立大で実施される中期日程の志願者は約2千人増加し、前年比は107.1%となった。長野大、長野県立大、山陽小野田市立山口東京理科大（薬）が今春入試より新たに中期日程を実施し、受け皿が広がった影響である。

【表2】国公立大(前期日程)地区別志願状況

地区	17年度	18年度	前年差	前年比
北海道	12,587	12,679	+92	100.7%
東北	19,882	20,761	+879	104.4%
北関東	14,398	14,189	-209	98.5%
南関東	52,890	52,610	-280	99.5%
甲信越	11,455	11,683	+228	102.0%
北陸	10,920	11,699	+779	107.1%
東海	23,430	22,830	-600	97.4%
近畿	44,010	43,057	-953	97.8%
中国	23,576	24,262	+686	102.9%
四国	12,528	10,728	-1,800	85.6%
九州	33,246	33,364	+118	100.4%

※文部科学省資料より

※北関東：茨城・栃木・群馬 南関東：埼玉・千葉・東京・神奈川

## ■系統人気は「文高理低」—「経済・経営・商」が人気、「農」は不人気

【表3】は国公立大の前期日程の志願状況を、学部系統別に集計したものである。

大きな流れとしては、近年の文系人気が続いており、「文高理低」といえる。ただし、学部系統別では差がみられる。

文系では「社会・国際」「経済・経営・商」で志願者が増加した。理系では、「理」「工」では前年並みだが、「農」では前年比 95.0%と志願者は減少した。このほか医療系でも前年比 96.7%と志願者は減少した。

以下に、主な系統について確認していく。

※文中の志願者数・前年比は特に記載がない場合、前期日程を表す

### 【文・人文学系】

系統全体の志願者は前年比 96.9%とやや減少した。ただし、志願者の減少が目立

つのは主に公立大である。また、首都大東京では都市教養-人文社会系が人文学科と人文社会学科の2学科に改組した。後者は「社会・国際」に含まれるため、「文・人文」の募集人員が減少した分、志願者数も減少した。なお、国立大のみでは、志願者は前年比 100.5%と前年並みである。

### 【社会科学系（社会・国際、法・政治、経済・経営・商）】

志願者は「法・政治」で前年比 97.9%となった一方、「社会・国際」では同 108.7%、「経済・経営・商」では同 106.0%と増加した。

「社会・国際」では、前述の首都大東京（人文社会-人文社会）、広島大（総合科学-国際共創）や九州大（共創）といった新設のほか、琉球大の学部再編により募集人員が増加した。これに伴い志願者も増加したが、志願倍率は前年の 3.68 倍から 3.54 倍へとダウンした。

「法・政治」では、千葉大（法政経）、一橋大（法）、名古屋（法）、大阪（法）、大阪市立大（法）、神戸（法）北九州市立大（法）などで志願者が減少した。一方、「経済・経営・商」では多くの大学で志願者が増加している。難関大では一橋大（商）、九州大（経済）を除き志願者が増加した。近年の好調な就職状況を背景に、経済系の人気は堅調である。

### 【自然科学系（理、工、農）】

志願者は、「理」が前年比 99.6%、「工」が前年比 100.3%と前年並み、一方で「農」は前年比 95.0%と減少した。「理」では、志願者が前年を下回ったものの、志願倍率は 2.87 倍と前年から 0.04 ポイント上昇した。「理」全体の募集人員が減少したため、志願倍率は上昇している。志願者の増加が目立ったのは、秋田大（理工）や富山大（理）など、a 方式・b 方式といった異なる配点比率の入試区分を複数設ける大学だ。2 次試験の配点比率が高い b 方式に受験生が集まった。そのほか、昨春入試で志願者が大きく減少した鹿児島大（理）や琉球大（理）などで志願者が増加した。「工」では、前述の秋田大（理工）や、山陽小野田市立山口東京理科大（工）など一部の大学では志願者の極端な増加が目立つものの、全体としては人気は落ち着きを感じられる。

「農」は自然科学系のなかでも志願者が減少した大学が目立ち、不人気系統といえる。ただし、京都大（農）、山口大（農）、鹿児島大（農）など、昨春入試で志願者が大きく減少した一部の大学では志願者の増加がみられ

【表3】国公立大(前期日程)学部系統別志願状況

系統	募集人員 (A)		志願者数 (B)				志願倍率 (B/A)	
	17 年度	18 年度	17 年度	18 年度	前年差	前年比	17 年度	18 年度
文・人文	7,132	7,031	22,649	21,945	-704	96.9%	3.18	3.12
社会・国際	3,482	3,936	12,812	13,933	+1,121	108.7%	3.68	3.54
法・政治	4,299	4,218	13,955	13,655	-300	97.9%	3.25	3.24
経済・経営・商	8,295	8,184	27,300	28,933	+1,633	106.0%	3.29	3.54
教育-教員養成課程	7,391	7,274	19,873	19,345	-528	97.3%	2.69	2.66
教育-総合科学課程	886	840	2,726	2,298	-428	84.3%	3.08	2.74
理	5,182	5,088	14,680	14,614	-66	99.6%	2.83	2.87
工	22,528	22,721	69,738	69,926	+188	100.3%	3.10	3.08
農	5,492	5,485	16,783	15,939	-844	95.0%	3.06	2.91
医・歯・薬・保健	10,558	10,501	39,857	38,535	-1,322	96.7%	3.78	3.67
医	3,686	3,668	18,093	17,065	-1,028	94.3%	4.91	4.65
歯	455	447	1,842	1,836	-6	99.7%	4.05	4.11
薬	751	748	3,076	2,948	-128	95.8%	4.10	3.94
看護	3,844	3,838	11,274	11,260	-14	99.9%	2.93	2.93
医療技術・他	1,822	1,800	5,572	5,426	-146	97.4%	3.06	3.01
生活科学	741	799	2,426	2,793	+367	115.1%	3.27	3.50
芸術・スポーツ科学	1,577	1,571	7,837	7,523	-314	96.0%	4.97	4.79
総合・環境・人間・情報	2,288	2,345	8,282	8,423	+141	101.7%	3.62	3.59
国公立 計	79,851	79,993	258,918	257,862	-1,056	99.6%	3.24	3.22

※河合塾調べ(一部大学発表の数値と文部科学省資料の数値と異なる場合は大学発表値を優先)  
※系統の分類は河合塾による

る。とくに、鹿児島大（農）は過去3年志願者の減少が続き、低倍率となっていたため、今春の志願者は前年比132.2%と大幅に増加した。

**〔医療系（医・歯・薬・保健）〕**

医療系全体の志願者は前年比96.7%となった。分野別にみると、医学科では前年比94.3%と志願者が減少した。河合塾が1月に実施したセンター試験自己採点集計「センター・リサーチ」では、医学科出願予定者はセンター試験の得点率が8～9割の層が減少しており、得点率9割以上の成績上位層ではあまり減少がみられなかった。実際の医学科志願者についても、旧帝大を中心とした難関大よりその他大で減少率が高くなった。

薬学部の志願者は、前年比95.8%と減少した。個別の大学をみると、学科ごとに隔年現象がみられるところもある。長崎大（薬）では薬学科で志願者減、薬科学科で志願者増となった。また、熊本大（薬）では薬学科で志願者増、創薬・生命薬科学科で志願者減となった。なお、徳島大は今春より6年制の薬学科と4年制の創製薬科学科がそれぞれ学科別の募集となるが、志願者は薬学科に集まった。

**〔その他〕**

「生活科学」の志願者は前年比115.1%と増加したが、これは長野県立大（健康発達）、島根県立大（人間文化-保育教育、看護栄養-健康栄養）など新設学部の影響である。これらを除くと、志願者は前年並みとなった。

「総合・環境・人間・情報」の志願者は前年比101.7%と前年並みである。ただし、情報分野では前年比116.0%志願者が大幅に増加した。近年の情報技術の発展に対する期待感の表れといえよう。

**■難関国立大の志願状況**

【表4】は旧帝大を中心とした難関10大学の志願状況をまとめたものである。

難関10大学全体では、前期日程は1,043人増（前年比101.8%）となった。難関大は堅調な人気を示している。

今春のセンター試験においては、平均点に大きな変化はないものの、英語（筆記）、数学Ⅱ・数学Bなどの主要科目で高得点を取りづらかったことから、得点率8割以上の高得点者層が減少している。にもかかわらず、難関大では志願者が増加しており、今春の受験生が果敢に挑戦している様子がうかがえる。

前期日程では、北海道大、東北大、大阪大で志願者が増加した一方、神戸大では志願者が減少した。

後期日程の志願者は、373人ほど減少した。一橋大（社会、法）で後期日程を廃止する影響である。一橋大で志願者が前年比76.2%と大きく減少したほか、北海道大、東京工業大、京都大、九州大などでも減少した。難関大では後期日程を実施する学部・学科が少なく、後期日程の出願を取りやめる受験生も相当数いたとみる。以下、大学別の状況をみていく。

**〔北海道大〕**

前期日程の志願者は前年比105.3%と増加した。とくに理系では、昨春志願者減となった学部が目立ち、今春はいずれの学部でも志願者が増加した。文系では総合入試文系、法、経済学部で志願者が増加した。とくに経済学部で増加率が高い。一方、文、教育学部では志願者が大きく減少した。これらの学部では昨春入試で志願者が大きく増加したため、受験生が敬遠したとみられる。

後期日程の志願者は前年比98.0%と減少した。志願者が減少した学部が目立つなか、理学部では前年より

【表4】国立難関10大学の志願状況

大学名	前期日程				後期日程			
	17年度	18年度	前年差	前年比	17年度	18年度	前年差	前年比
北海道	5,540	5,833	+293	105.3%	4,096	4,016	-80	98.0%
東北	4,927	5,242	+315	106.4%	1,156	1,398	+242	120.9%
東京	9,534	9,675	+141	101.5%	—	—	—	—
東京工業	4,167	4,229	+62	101.5%	523	469	-54	89.7%
一橋	2,907	2,935	+28	101.0%	1,577	1,201	-376	76.2%
名古屋	4,723	4,752	+29	100.6%	60	53	-7	88.3%
京都	7,875	7,861	-14	99.8%	487	372	-115	76.4%
大阪	7,397	7,867	+470	106.4%	—	—	—	—
神戸	5,971	5,634	-337	94.4%	4,053	4,346	+293	107.2%
九州	5,190	5,246	+56	101.1%	2,755	2,479	-276	90.0%
難関10計	58,231	59,274	+1,043	101.8%	14,707	14,334	-373	97.5%
その他大計	200,691	198,588	-2,103	99.0%	169,520	163,908	-5,612	96.7%

※文部科学省資料より  
※「その他大計」は難関10大を除いた国公立大計

3割以上志願者が増加した。昨春入試で志願者が大幅に減少した反動とみられる。

#### [東北大]

前期日程の志願者は前年比 106.4%と増加した。文系学部は、昨春入試で比較的低い倍率となったこともあり、軒並み志願者が増加した。とくに、教育学部は昨春志願者が大幅に減少しており、今春入試では5割近く増加した。理系学部でも志願者の増加が目立つが、理、医学部の志願者はやや減少した。医学部では、医学科の志願者は前年並みとなったが、保健学科で志願者が減少した。

経済学部と理学部のみで実施される後期日程では、両学部とも志願者が増加した。とくに経済学部では前年より5割増と増加率の高さが目立つ。一橋大の後期日程が経済学部のみでの実施となることから、志願者の集中を警戒した受験生が集まったとみられる。

#### [東京大]

前期日程の志願者は前年比 101.5%となった。文理別にみても、文科類・理科類とも前年比 101.5%と、堅調な人気を維持している。

文科類では、文科一類は、昨春入試では志願者が増加したが、今春入試では前年比 101.0%と前年並みに落ち着いた。同じく昨春志願者が増加した文科二類では、前年比 106.8%と増加、第1段階選抜の最低点は前年の 623 点から 703 点へと大きく上昇した。一方、文科三類の志願者は前年比 98.1%と2年連続での減少となった。

理科類では、理科一類で前年比 103.1%、理科二類で同 103.2%といずれも志願者はやや増加した。一方、今春入試より2次試験で面接を導入する理科三類では、志願者が前年比 85.4%と減少した。

#### [東京工業大]

前期日程の志願者は前年比 101.5%と前年並みとなった。類別にみると、材料系の第2類で志願者が2割近く増加した。昨春入試で志願者が大きく減少、易化した反動とみられる。このほか、通信・情報系の第5類、土木・建築系の第6類においても志願者が増加した。一方、昨春入試で志願者が大きく増加、難化した第7類では、志願者は大きく減少した。

第7類のみで実施される後期日程では、過去2年志願者の増加が続いていたが、今春入試は前年比 89.7%と落ち着きがみられた。

#### [一橋大]

前期日程の志願者は前年比 101.0%と前年並みとなった。学部別にみると、社会学部では昨春入試で志願者が大きく減少した反動から今春入試の志願者は3割増となった。一方、法、商学部では昨春の志願者増加の影響もあり今春入試は大きく減少した。経済学部は2年連続で志願者が増加しており、引き続き人気を集めた。

後期日程は、今春入試より社会、法学部で廃止され、経済学部のみでの実施となる。これにより、経済学部の志願者は前年より2割以上増加した。

#### [名古屋大]

前期日程の志願者は前年比 100.6%と前年並みとなった。学部別にみると、教育、法、工学部では志願者が減少した。法学部では過去2年志願者の増加が続き、難化していたことも要因の一つだろう。昨春学科を改組した工学部では、昨春入試で低倍率となったエネルギー理工学科で志願者が増加したが、マテリアル工学科や機械・航空宇宙工学科などでは志願者が減少した。一方で、経済学部の志願者は系統人気もあり前年より2割増となった。このほか、昨春改組した情報学部では志願者が1割近く増加しており、引き続き高い人気を示している。

医学部医学科のみで実施される後期日程は、今春入試より出願条件が愛知県内出身者に限られる。志願者は前年比 88.3%と減少した。

#### [京都大]

前期日程の志願者は前年比 99.8%と前年並みとなった。教育学部では、昨春入試で大幅な志願者増となった反動から志願者は前年比 82.9%と減少した。一方、農学部では昨春入試で志願者が大きく減少していたためか、今春入試の志願者は前年比 108.9%と不人気系統にも関わらず志願者が集まった。このほか、医学部人間健康科学科では改組のあった昨春入試で難化した影響から、志願者は前年比 74.3%と大きく減少した。

後期日程として実施される法学部の特色入試では、志願者は前年比 76.4%と大きく減少した。昨春入試で志願者が大きく増加した反動もあるだろう。

### [大阪大]

前期日程の志願者は前年比 106.4%と増加した。河合塾が実施した全統模試においても年間を通して志望者が増加しており、高い人気を示していた。昨春入試では後期日程廃止に伴い前期日程の募集人員が増加していたものの志願者は前年並みにとどまった結果、比較的到低い倍率となった学科・専攻が多かった。受験生にとってはこれが狙い目に映ったのではないか。

学部別にみても、法、工学部を除き志願者が増加した。法学部では昨春入試で志願者が3割以上増加、難化したため、警戒されたのだろう。また、工学部は理工系3学部のなかでもセンター試験国語の配点が高く、国語で難化した影響から他学部や他の大学へと志望変更した受験生も一定数いたとみられる。

### [神戸大]

前期日程の志願者は前年比 94.4%と減少した。他の難関大の多くは配点比率が2次試験重視となっているが、神戸大ではセンター試験と2次試験の配点比率が1:1に近い、もしくはセンター試験の方が高くなっている学部・学科が多い。センター試験高得点者層が減少した今春入試では、出願を他大学に切り替えた受験生も少なくなかったのではないか。学部別にみても志願者の減少が目立つが、経済学部は今春より3区分での募集となり、募集人員が増加したこともあり、志願者は増加した。また、農学部では昨春入試で志願者が大幅に減少しており、倍率が1倍台のコースもみられたことから、志願者は増加した。

後期日程の志願者は107.2%と増加した。文系学部では、一橋大後期日程縮小の影響で特定の学部の志願者集中が懸念されたが、そういった動きはみられなかった。一方、理系学部では昨春志願者が減少した反動から、志願者の増加が目立つ。とくに、海事科学部では志願者が前年から4割増加した。

### [九州大]

前期日程の志願者は前年比 101.1%と前年並みとなった。新設の共創学部では、募集人員 65 名に対して志願者数は 204 人となった。志願倍率は 3.14 倍と、他学部と比較して高めとなった。一方、既存の学部では募集人員の減少が影響してか、志願者が減少した学部が目立つ。また、歯学部では募集人員が 42 名から 45 名へと増加したものの、志願者は前年より 4 割減少した。過去 2 年、大幅な志願者増加が続いており、その反動とみられる。

後期日程の志願者は前年比 90.0%と減少した。歯学部で後期日程が廃止されたほか、既存の学部で募集人員が減少したことから、前期日程と同様に志願者の減少が目立つ。

大学別の国公立大の出願状況は河合塾入試情報サイト Kei-Net (※) にて閲覧が可能となっているのでご利用いただきたい。

※Kei-Net 国公立大出願状況：<http://www.keinet.ne.jp/shutsugan/>